

# 令和2年度 いちじく病害虫防除暦 露地

農薬取締法では、農薬使用者の責務や、遵守義務規定、努力規定が定められています。ルールを守って正しく使用しましょう。

JA佐渡 いちじく倶楽部

【表示されている農薬の使用基準は令和元年12月4日現在の登録内容です】

回数	散布時期 (生育ステージ)	主な対象病害虫	薬剤名	散布濃度	10a当たり 散布量 (リットル)	収穫前日数 /使用回数	水100L当 たり薬量	使用上の注意点 (良く読んで下さい)	散布日
臨時	3月下旬～4月上旬	越冬病害虫	石灰硫黄合剤	7倍	200	発芽前/ー	14L	・風のない日に丁寧に散布する。	月 日
臨時	4月(発芽前)	カミキリムシ類	ガットサイドS	原液塗布	ー	7日前/3回	ー	・カミキリムシ類発生園はガットサイドSを4月中に原液塗布する。	月 日
臨時	4月(発芽前)	クワカミキリ	園芸用キンチョールE ※総使用回数2回のため注意!	食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から逆流するまで噴射する。	ー	前日/2回	ー	・クワカミキリの幼虫が、木くず、虫ふんを出すので食入孔から園芸用キンチョールEを噴霧し殺虫する。 ・木くず・虫ふんを目安に小刀等で削り幼虫を捕殺する。 ・反射マルチ(シルバーシート)を樹冠下に設置することにより、アザミウマ類による被害軽減効果がある。	月 日
1	6月上旬 (着果始期)	疫病	Zボルドー クレフノン	1,000倍 200倍	200	ー/ー ー/ー	100g 500g	・銅剤による薬害防止のため、クレフノンを加用する。 これ以降銅剤を使用する場合は必ずクレフノンを加用すること。 ・疫病の感染初期なので、前年多発園地や多雨年には特に注意する。 ・疫病等の病害対策として、敷ワラ、マルチをする。	月 日
2	6月20日頃	アザミウマ類 疫病	スピノエース顆粒水和剤 Zボルドー クレフノン	5,000倍 1,000倍 200倍	200	前日/1回 ー/ー ー/ー	20g 100g 500g	・1～2段目の果実の目がわずかに開く頃(果実の横径20mmの頃)が散布の目安。生育に応じて早めに散布する。 ・疫病の発生果実はほ場内に放置せず、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・6月中旬から7月下旬にかけて、キボシカミキリ及びクワカミキリの成虫が発生するので、見つけ次第捕殺する。	月 日
3	7月上旬	アザミウマ類・キボシカミキリ 疫病	モスピラン顆粒水溶剤 Zボルドー クレフノン	2,000倍 1,000倍 200倍	200	前日/3回 ー/ー ー/ー	50g 100g 500g	・カミキリムシ多発園地ではガットサイドSを塗布する。 ・多雨が病気発生を助長するので、薬剤散布の間隔を詰め、排水対策を徹底する。 ・土壌から病原菌の跳ね返りを防ぐため、敷きワラ、マルチをする。	月 日
4	7月中旬	アザミウマ類、カミキリムシ類 疫病	ダントツ水溶剤 ライメイフロアブル	2,000倍 3,000倍	200	3日前/3回 前日/3回	50g 33ml	・ライメイフロアブル 3000倍に代えてアミスター10フロアブル 1,000倍(前日/3回)でもよい。	月 日
臨時	7月下旬	ハダニ類	マイトコーネフロアブル	1,000倍	200	前日/1回	100ml	・梅雨明け後の高温乾燥により、ハダニ類が多発するので注意する。 ・マイトコーネフロアブルは総使用回数が1回のため使用回数に注意する。	月 日
臨時	7月～9月	クワカミキリ	園芸用キンチョールE ※総使用回数2回のため注意!	食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から逆流するまで噴射する。	ー	前日/2回	ー	・クワカミキリの幼虫が、木くず、虫ふんを出すので食入孔から園芸用キンチョールEを噴霧し殺虫する。 ・木くず・虫ふんを目安に小刀等で削り幼虫を捕殺する。	月 日
5	8月上旬	ヒラス・アザミウマ 黒かび病	コテツフロアブル トップジンM水和剤	2,000倍 1,000倍	200	前日/2回 7日前/5回	50ml 100g		月 日
6	8月下旬	アザミウマ類 疫病	スカウトフロアブル ランマンフロアブル	2,000倍 2,000倍	200	前日/3回 前日/3回	50ml 50ml	・収穫期に当たるため、収穫前日数に注意し使用基準を遵守する。 ・疫病多発時には、罹病果実をすべて園場外に搬出した後に殺菌剤を散布する。その後も園場を見回り罹病果実は必ず搬出し、菌密度を下げる。 ・腐敗果実は、果実腐敗の二次伝染源及びショウジョウバエ類の発生源となるので、ほ場外へ持ち出して処分する。	月 日
臨時	収穫期間	ショウジョウバエ類	アーデント水和剤	1,000倍	200	前日/2回	100g	・ショウジョウバエは、酵母腐敗病の原因となるので、ほ場周囲にショウジョウバエの発生原因となるもの(野菜くずなど)を放置しない。	月 日
		疫病・黒かび病	ダコニール1000	2,000倍	200	前日/2回	50ml	・9月は、キボシカミキリの発生期に当たるので、多発園地ではモスピラン顆粒水溶剤2,000倍(前日/2回)を散布する。	月 日

(注1)  
 農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談ください。  
 周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。(他の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。)  
 農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう!  
 散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。  
 防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期に実施しましょう。  
 園地環境(防風樹の整備・草刈りの徹底)をよくしましょう。

(注2)  
 薬剤混用の順序(水和剤混用の場合) 水 → 展着剤 → 殺菌剤 → 殺虫剤  
 薬剤混用の順序(乳剤混用の場合) 水 → 乳剤  
 薬剤混用の順序(フロアブル剤、水和剤混用の場合) 水 → フロアブル剤 → 水和剤  
 ※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。

# 令和2年度 いちじく病害虫防除暦 ハウス

農薬取締法では、農薬使用者の責務や、遵守義務規定、努力規定が定められています。ルールを守って正しく使用しましょう。

JA佐渡 いちじく倶楽部

【表示されている農薬の使用基準は令和元年12月4日現在の登録内容です】

回数	散布時期 (生育ステージ)	主な対象病害虫	薬剤名	散布濃度	10a当り 散布量 (L/ha)	収穫前日数 /使用回数	水100L当 たり薬量	使用上の注意点 (良く読んで下さい)
臨時	4月(発芽前)	カミキリムシ類	ガットサイドS	原液塗布	—	7日前/3回	—	・カミキリ類発生園はガットサイドSを4月中に原液塗布する。
臨時	4月(発芽前)	クワカミキリ	園芸用キンチョールE ※総使用回数2回のため注意!	食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から逆流するまで噴射する。	—	前日/2回	—	・クワカミキリの幼虫が、木くず、虫ふんを出すので食入孔から園芸用キンチョールEを噴霧し殺虫する。 ・木くず・虫ふんを目安に小刀等で削り幼虫を捕殺する。 ・疫病等の病害対策として、敷ワラ、マルチをする。 ・反射マルチ(シルバーシート)を樹冠下に設置することにより、アザミウマ類による被害軽減効果がある。
臨時	6月上旬	ハダニ類	バロックフロアブル	2,000倍	200	前日/1回	50ml	・バロックフロアブルは、成虫に効果がないので発生初期に散布する。
1	6月上中旬	アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	200	前日/1回	20g	・スピノエース顆粒水和剤に替え、モスピラン顆粒水溶剤2,000倍(前日/3回)でもよい。 ・1～2段目の果実の目がわずかに開く頃(果実の横径20mmの頃)が散布の目安。生育状況により早めに散布する。
2	6月下旬	アザミウマ類・カミキリムシ類	ダントツ水溶剤	2,000倍	200	3日前/3回	50g	・疫病の発生果実はほ場内に放置せず、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・6月中旬から7月下旬にかけて、キボシカミキリ及びクワカミキリの成虫が発生するので、見つけ次第捕殺する。 ・多雨が病気の発生を助長するので薬剤散布の間隔を詰めるとともに、排水対策を徹底する。また、病気が懸念される場合にはZボルドー1,000倍・クレフノン200倍を散布する。 ・土壌から病原菌の跳ね返りを防ぐため、敷きワラ、マルチをする。
		疫病	ランマンフロアブル	2,000倍		前日/3回	50ml	
3	7月中旬	アザミウマ類	スカウトフロアブル	2,000倍	200	前日/3回	50ml	・スカウトフロアブルに代えてコテツフロアブル2000倍(前日/2回)でもよい。 ・カミキリムシ多発園ではガットサイドSを塗布する。
		黒かび病	トップジンM水和剤	1,000倍		7日前/5回	100g	
臨時	7月中～下旬	ハダニ類 黒かび病	マイトコーネフロアブル ロブラール500アクア	1,000倍 1,000倍	200	前日/1回 3日前/3回	100ml 100ml	・梅雨明け後の高温乾燥により、ハダニ類が多発するので注意する。 ・マイトコーネフロアブルは総使用回数が1回のため使用回数に注意する。
臨時	7月～9月	クワカミキリ	園芸用キンチョールE ※総使用回数2回のため注意!	食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から逆流するまで噴射する。		—	前日/2回	—
4	8月上旬	アザミウマ類・キボシカミキリ	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	200	前日/3回	50g	・収穫期に当たるため、収穫前日数に注意し使用基準を遵守する。 ・疫病多発時には、罹病果実をすべて圃場外に搬出した後に殺菌剤を散布する。その後も圃場を見回り罹病果実はず必ず搬出し、菌密度を下げる。 ・腐敗果実は、果実腐敗の二次伝染源及びショウジョウバエ類の発生源となるので、ほ場外へ持ち出して処分する。 ・9月は、キボシカミキリの発生期に当たるので、多発園ではモスピラン顆粒水溶剤2,000倍(前日/3回)を散布する。
		疫病	ライメイフロアブル	3,000倍		前日/3回	33ml	
臨時	収穫期間 (8月中旬)	アザミウマ類	スカウトフロアブル	2,000倍	200	前日/3回	50ml	
臨時	収穫期間	ショウジョウバエ類	アーデント水和剤	1,000倍	200	前日/2回	100g	
		疫病・黒かび病	ダコニール1000	2,000倍	200	前日/2回	50ml	
		疫病	ランマンフロアブル	2,000倍	200	前日/3回	50ml	

(注1)  
 農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談してください。  
 周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。(他の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。)  
 農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう!  
 散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。  
 防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期に実施しましょう。  
 圃地環境(防風樹の整備・草刈りの徹底)をよくしましょう。

(注2)  
 薬剤混用の順序(水和剤混用の場合) 水 → 展着剤 → 殺菌剤 → 殺虫剤  
 薬剤混用の順序(乳剤混用の場合) 水 → 乳剤  
 薬剤混用の順序(フロアブル剤、水和剤混用の場合) 水 → フロアブル剤 → 水和剤  
 ※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。